

## 平成19年度第2回尾張旭市交通問題懇話会

### 1 開催日時

平成19年10月30日（金）

開会 午後2時

閉会 午後4時

### 2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎3階 講堂2

### 3 出席者名

会長：加藤哲男 副会長：黒田鉦司

構成員：伊藤寛、小川智子、荻原善夫、奥野昌明、可知洋二、加藤桃代、  
苺谷勝、櫻井栄二、田中悦子、寺田千珠子、林喜一、日比野正夫、  
渡辺鎮夫

顧問：伊豆原浩二

市長：谷口幸治市長

事務局：大橋邦弘、秋田誠、長江均、磯村茂、大和弘明

### 4 議題等

- (1) 平成19年度第1回交通問題懇話会会議概要の確認について
- (2) これまでの取組み状況について
- (3) 今後の取組み予定について
- (4) その他

### 5 会議の要旨

#### 部長あいさつ

この交通問題懇話会につきましては、平成16年度から開催をさせていただき、これまで様々なお意見をいただいております。そうしたご意見を参考に試験運行を行い、今日に至っておりますが、こうしたことをもって市営バスの基本的な事項については、その礎ができたと認識をしております。このため、この懇話会につきましては、本日を最後にしたいと考えております。以上により、本日は、市長からお礼かたがた、皆様にごあいさつを申し上げます。

#### 市長あいさつ

交通問題懇話会につきましては、平成16年度から開催をいたしまして、本日を含めて、延べ19回の会議を重ねてまいりました。その中で、皆様からは、様々なお意見をいただきました。

平成16年12月から試験運行を開始し、平成17年度には、愛知医大へのルート延長などを実施、平成18年度には、外に出かけたくなるまちづくりの一環として3ルートから4ルートへと路線の見直しを図ってまいりました。

今年度におきましては、バスのデザインと愛称を市民公募、市民投票で選び、東・西ルートで市営バス「あさび一号」をいよいよ導入する運びとなりました。

ここまで、こうしてやってこられましたのも、皆様方のご理解、ご協力があればこそと、改めて感謝申し上げます。

この仕組みにつきましては、先の6月議会におきまして条例を制定し、現在、指定管理者制度を導入するための事務手続きを行っております。また、来年4月からは条例が施行となり、これを機に、試験運行から本格運行へと切り替えてまいりたいと考えております。

今後とも、より多くの市民のかたにご利用いただき、少しでも皆様の外出の機会が増え、車窓から笑顔がみえれば、こんなにうれしいことはありません。

交通問題懇話会としては、本日が、最後となりますが、今後とも、この市営バスの活性化のため、引き続きご尽力を賜りますようお願いを申し上げます。

## (1) 平成19年度第1回交通問題懇話会会議概要の確認について

(事務局)

第1回目の概要については、前回出席者に事前に送付させてもらい、確認をしていただいております。すでに市のホームページにおいて公表させていただいておりますので、よろしく申し上げます。

## (2) これまでの取組み状況について

(事務局)

(試験運行の利用状況について)

試験運行が始まりました平成16年12月の1日平均の利用者が134人でありました。平成19年9月には388人にもなり、開始当初のほぼ3倍にまでなりました。着実に利用者数が伸びておりますが、東・西ルートにつきましては、新しいマイクロバス車両で、来月12月5日から運行する予定であります。今以上に利用者が増えるものと期待をしております。

(今年度10月までの取組みについて)

4月29日から5月末まで、車両のデザイン・愛称の募集を行い、デザインで90件、愛称で142件ものご応募をいただきました。

6月には、これまでの試験運行をより明確に位置付けし、議会にも関わっていただけるよう条例案を提出し、運行を指定管理者に委ねる制度も規定しまし

た。この条例案は6月議会で議決され、平成20年4月1日から施行します。

6月25日には、第1回交通問題懇話会を開催し、構成員の皆様には、デザイン、愛称の候補者選定でお手伝いをいただきました。

8月10日には、本市域のバスなどの旅客運送についていろいろと意見を頂戴する地域公共交通会議を開催しました。第1回ということで情報共有という点に主眼を置いて開催しました。

8月15日から31日まで車両のデザイン・愛称の投票を実施しました。

9月、10月には指定管理者の公募、選考を行い、その結果、指定管理者の候補者として、豊田市を拠点とする豊栄交通㈱を選考しました。特に、本市に営業所を開設し、地域に根ざした事業展開を行うこと、財務面の安定性などを評価したものであります。

(会長)

20年4月から指定管理者での運行ということですが、今年度中のマイクロバス運行は現行の会社が運行するのですか。

(事務局)

そのとおりです。

(構成員)

指定管理者で運行業者が代わるということだが、私は現行の会社で引き続き運行すると思っていた。現行の会社もうまくやっていたらと思うが。

(事務局)

現行の運行会社であるあんしんネットあいちさんもしっかりと運行をしていただいております、何の問題もありませんでした。今回の豊栄交通さんについては、運行に関わるベースのところをきちんと行ったうえで、さらに充実させていただけるという理解であります。

### (3) 今後の取組み予定について

(事務局)

12月1日に、デザイン・愛称の投票で優秀賞とられた方たちに対し、それを称えて、賞状の授与を行います。

12月5日から新車両が、東・西ルートを運行します。

指定管理者の指定の手続きは、12月議会の議決を経てこれを行います。

また、停留所等が瀬戸市、長久手町にありますので、条例を制定した関係上、

関係市町の議会の議決を経て協議を行う必要があります。

さらに12月より、来年4月からの本格運行に備えて、一部ルートの見直しができるか検討をしていきます。

1月もしくは2月には、2回目の地域公共交通会議を開催し、ルートの見直しの件、4月からの新しい事業者で運行を行う件、障害者の方の運賃無料化などについて話をしていきたいと考えております。

また、3月迄には4月からの運行に支障がないよう豊栄交通と協議をしてみたいと思います。

それから、新たな利用者組織についてお話しさせていただきます。来年4月の本格運行にあわせ、この懇話会は一旦区切りをつけ、来年度から市営バスに係る新しい利用者組織（例えば友の会）の構想をもっています。その組織立ち上げのためには、まず会の中心となる人たちで準備組織をつくり、会で行う事柄、運営などについて話し合い、組織の規約案などを作成してもらう。これを広く利用者呼び掛け、賛同者を募り、利用者等が主体となって会を組織し、運営を行っていく。行政はこうした組織を支援し、事業者は利用者の声をお聞きし、高質なサービスを提供する。そんなイメージを考えております。こうした組織の立ち上げについて、参画の意思などを含めご意見をお願いします。

（構成員）

本格運行前にルートの見直しを検討するということが、もったここのルートを変えてほしいとかいう意見を、私たちはいつ言えばいいのか。たとえば東ルートの西山保育園の南側の運行は、夕方になると園児のお迎えで人通りが多くなるので通らないようにした方がいいと、以前、企画課にも言わせてもらったことがあるが。

（事務局）

いつまでにということはなく、気付かれたときにその都度言ってもらえれば結構です。なお、西山保育園の南側については、以前お伺いしましたので、12月5日から保育園の南側は通らないようにします。

（会長）

ルートの変更などについて意見があれば、市の企画課へ連絡するということがお願いします。

（構成員）

仕組みの骨格部分は地域公共交通会議で議論するということがあったが、ルートの変更要望については個別に企画課へ連絡するということがよいか。

(事務局)

担当部署へ話を持ってきてもらえれば結構です。

(構成員)

4月からの新組織でも、ルート変更の意見を出していてもよいのか。

(事務局)

友の会(新組織の仮称)に入って、よりよいものにしようと思えば、ルート変更といった意見も出てくると思います。

(顧問)

市民は市民として、行政側に意見を言ってもらえればよいと思います。

(構成員)

停留所の名前は町名がほとんどだが、事業所名を入れる考えはあるのか。名前を入れてお金を貰って経費削減を図ったらどうかという意見も以前はあったが、最近は話に上らないようだ。

(顧問)

私が参加している運輸局の会議では、地域公共交通会議をどううまく活用するかという議論を現在行っていますが、その中で、広告・協賛といった話が検討項目に入るような議論がなされています。今後、地域の公共交通をどのようにしていくかということでガイドラインを作る予定もありますので、交通会議の検討項目に入ってくるかもしれません。

(会長)

車内放送も広告媒体になり得ます。地域のPRもできますし、おおいに検討してもらいたいと思います。

(構成員)

新組織の目的を明確にしてはどうか。責任は誰が取るのかということを見ると、調整役がないとうまく回っていかないのではないかと。リーダーシップを取る人や責任者をはっきりさせた方がよいと思う。

(事務局)

何らかの形で行政がバックアップはしていこうと考えています。行政も必要な責務を果たすことになろうとは思いますが、こういった組織を長く継続させる

ためにも、一番初めの段階からみなさんの意見を持ちよって決めていってはどうでしょうか。もちろん、行政が何もしないというわけではありません。

(構成員)

あるところまでは道筋を付けてもらわないと、なかなか動けないと思う。

(事務局)

来年4月からの指定管理者は非常に積極的で、市バスだけでなく他の事業もやっていきたいと考えています。行政の指示だけでなく、自分たちのやりたいこともやらせてもらいたいと言っています。利用者と事業者、行政の3者がうまくかみあって進んでいければよいのではないかと考えております。

(構成員)

利用者があれもこれもやってほしいと言っても、事業者ができないと言うと、間に行政が入らないとどうにもならないおそれがある。

(会長)

みなさんの中で、新組織の立ち上げにご賛同いただき、中心になっていただける方がみえると良いと思います。市も初めての取組みということになりますし、新しい組織に参画されるかたは与えられたことが全てでなく、いろいろな知恵を出していってほしいと思います。

(顧問)

コミュニティバスの関係で市民会議を行っている自治体はいろいろあります。しかし、情報収集などは行政でやっていかないと、市民もなかなか知恵は出てこないと思います。

(構成員)

来年4月から運行を行う豊栄交通は、非常に前向きな姿勢とのことであるが、他のところでも何か事業を行っているのか。

(事務局)

豊栄交通は豊田市のコミュニティバスも運行していますし、企業の社員輸送業務なども行っています。選考時には、利用者の意見も聞いて、市営バスをよりよくするように頑張っていくというスタンスでありました。

(構成員)

この新組織の立ち上げについては、いつまでにとりいう期限を切って、活動していくという考えを持っているのか。

(事務局)

今年度中から準備を進めていき、立ち上げはおそらく来年4月以降になると思います。

(会長)組織づくりというのは、かなり労力がかかります。

(構成員)

メンバーを広報などで募ったりするのか。そこで、一般の方が応募するという感じなのか。

(事務局)

まだ、イメージという段階であり、はっきりこういった形といったものはできていません。皆さんにご意見をいただきながらやっていきたいと考えています。

(会長)

この懇話会の中で、あいまいな考えでは困りますので、概略だけでも教えていただきたいと思います。

(事務局)

事業者との調整も必要ですので、3月上旬までには核となる方々を決めていきたいと考えております。

(構成員)

バスを運行していて、こうした組織を立ち上げている参考となる自治体はあるのか。

(顧問)

バスの指定管理者ということで、尾張旭市の取組みはめずらしい事例ですが、そういった利用者組織を立ち上げている例としては、この辺りでは、豊田市や尾張北部地方にもよい例がありますし、全国的にもたくさんあります。それらは、市が最初の立ち上げには関わりますが、あとは市民で運営している自治体がほとんどのようです。

(構成員)

現在の4つのルートはそれぞれのルートで問題点が異なっているのではないかと。東ルートは利用者が多く、ベンチに座れずに立っているのがつらい人もいます。地域ごとの特性を考えた取り組みが、次の新しい組織でできていければよいと思う。

(構成員)

この中で参加したいという考えの人は、発起人となってやっていってはどうか。

(会長)

やってみたいという人がいましたら、市に連絡して発起人となり、その人たちが市で集まって準備組織を立ち上げるということでどうでしょうか。懇話会の構成員以外の人でも、参加してみたい人がいるなら、市に教えてあげてほしいと思います。

(構成員)

新しいバスを見せてもらったが、バスの値段はいくらか。

(事務局)

2台で約1,800万円強です。

(顧問)

補助ステップが30cmあり、広いので、逆に中の手すりに届かないお年寄りには乗りにくいと感じるかもしれません。

(事務局)

南・南西ルートにつきましても、来年度バスを購入するべく予算要求をしていきたいと考えています。

(構成員)

市民投票で決まったデザインが現実となって、非常に感慨深い。これからたくさんの方が乗られることを期待しています。

(会長)

今回は最後の懇話会ですので、皆様お一人ずつ、感想でも構いませんので、

ご発言をお願いします。

(構成員)

長い間ありがとうございました。

(構成員)

利用者も新しい車両にできるだけ早く慣れてほしい。車両のデザインも明るくていいと思います。

(構成員)

運行についての課題がまだあったかと思うが、それらも解消されていってほしいと思います。

(構成員)

自治連合協議会の代表として参加させてもらっていたが、地元の利用がなかなか増えず、申し訳ない気持ちもあります。

(構成員)

婦人会は公民館活動が多いので、バスを利用してくる人が増えてきた。車両のデザインは小さい子が乗りたくなるようなバスだと思う。用事はなくても、このバスで市を一周してもらいたいと思う。

(構成員)

新たな組織の中で停留所を清掃するという案があるが、それは誰がやるのか。

(事務局)

有志を募ってやっていきたいと考えていますが、内容についてはまだ固まっていません。

(構成員)

掃除するというのはいいいことだが、4路線全てをやっていくとなるとすごく時間がかかる。

(事務局)

そういったことも含めて、活動内容を決めていきたいと思います。

(構成員)

以前、バスに子供たちを乗せていったことがあるが、すごく喜んだ。帰りも

バスで帰りたいた言っていたぐらいだから、今度のバスは非常に楽しみである。また、ある人から、尾張旭市のバス利用者数が順調に伸びている要因について、それにたずさわっている人のおかげと言われ、うれしかった。

(構成員)

いろいろと言いたいことを言ったりしたが、ご容赦願いたい。

#### (4) その他

(事務局)

4月からの主な事務として、デザイン・愛称を決めることでありましたが、約1,700人もの人たちがバスに関心を寄せて投票していただきました。将来的に考えると、種を蒔くことができたと思っています。今後もバスにたくさんの方が乗っていただければありがたいです。それでは、最後に、伊豆原顧問、加藤会長よりあいさつを頂戴したいと思います。

(顧問)

長い間ありがとうございました。尾張旭市の公共交通に関わらせていただいたから、5年が経ちました。すばらしい皆様方とともに、尾張旭市にバスを走らせるところまですることができました。新組織の具体例では鈴鹿市があります。鈴鹿市では毎年1回、総会で感謝状を出しています。例えば、停留所に屋根を作った大工さんを表彰するといった具合です。鈴鹿市の組織には中学生や高校生も入ったグループです。地域公共交通会議につきましても、これからどうやっていくのかということも整理しなければなりません。地域ごとに事情は異なりますので、これからもいろいろな意見を出していただきたいと思います。ありがとうございました。

(会長)

平成15年の協議会から会長をやらせていただきました。平成13年から名古屋産業大学で勤務するようになったばかりで、あまりこの辺の地域を知らない状態でした。そんな中、交通問題を通して地域の人たちと関わって、心から感謝しております。ありがとうございました。